

第9回 薩摩川内市 次世代エネルギービジョン策定委員会 議事要旨

I 日 時 平成25年3月26日(火) 15:30~17:00

II 場 所 川内ホテル 寿の間

III 出席者(敬称略)

■委員

古川 洽次	日本郵便株式会社 代表取締役会長
荒木 貞夫	荒木商事株式会社 代表取締役会長
上蘭 真歩	南日本ガス株式会社 代表取締役社長
金沢 篤宣	富士通株式会社 鹿児島支店長
大矢 文男(川口委員代理)	京セラ株式会社 鹿児島川内工場 副工場長
水町 豊(坂口委員代理)	九州電力株式会社 経営企画本部 長期エネルギー戦略グループ グループ長
三本 积世	Woman 創 ing 会長
住吉 文夫	国立大学法人鹿児島大学 工学部長
田中 陽一郎	公益社団法人日本青年会議所 鹿児島ブロック協議会直前会長
永山 在紀	南国殖産株式会社 代表取締役社長
野間口 有	独立行政法人産業技術総合研究所 理事長
宮田 雄二(葦迫委員代理)	中越パルプ工業株式会社 川内工場 次長
吉満 祐市	株式会社吉満組 代表取締役会長

■オブザーバー

田上 哲也	九州経済産業局 資源エネルギー環境部 電源開発調整官
永野 詳二(寶満様代理)	鹿児島県 環境林務部 地球温暖化対策課 参事

IV 配布資料

資料 1-1	薩摩川内市次世代エネルギービジョン策定委員会第8回会合の概要
資料 1-2	地域との対話の概要
資料 2-1	薩摩川内市次世代エネルギービジョン(案)全体像
資料 2-2	薩摩川内市次世代エネルギービジョン(案)(概要版)
資料 2-3	薩摩川内市次世代エネルギービジョン
資料 2-4	ビジョン(案)の主な修正点
資料 3	行動計画
資料 4	今後のフォローアップ
資料 5	「薩摩川内市次世代エネルギー導入促進協議会総会」議事次第(案)
資料 6	柏木委員提出資料
参考資料 1	平成25年度当初予算案等における主要関連項目

- 参考資料2 国のエネルギー政策の議論の動向
参考資料3 次世代関連行事（イベント）一覧

V 会議進行

1. 開会

- ・第9回薩摩川内市次世代エネルギービジョン策定委員会が開会された。

2. 事務局

- ・事務局より委員代理の案内がなされた。

3. 委員長あいさつ

- ・古川委員長よりごあいさついただいた。

4. 議事

- ・議事進行は古川委員長により執り行われた。

(1) 薩摩川内市次世代エネルギービジョン策定委員会第8回会合の概要

(2) 地域との対話の概要

- ・事務局より、資料1-1～資料1-2を用いて説明がなされた。

(3) 薩摩川内市次世代エネルギービジョン（案）の全体像

(4) 薩摩川内市次世代エネルギービジョン（案）（概要版）

(5) 薩摩川内市次世代エネルギービジョン（案）

(6) ビジョン（案）の主な修正点

- ・事務局より、資料2-1～資料2-4を用いて説明がなされた。キャッチフレーズの決定について、古川委員長よりコメントを頂いた。

（古川委員長）キャッチフレーズは3つの案が出され、いずれの案に対してもご意見が出された。その中で、3番目の「エネルギーのまち、薩摩川内」が良いというご意見が多かったようである。サブタイトルの「～みんなで創るエネルギーのまちの未来～」は共通である。どのキャッチフレーズがよいか、非常に悩んだ。ちょうどその頃、スマートフォンに替えたこともあり、「スマート」には賢いという意味もあるということから、キャッチフレーズは「超スマート！薩摩川内市」に決定させていただいたのだが、宜しいか。（出席者全員より拍手によりご賛同）皆様にご賛同いただいたので、これを決定版とさせていただきます。

(7) 行動計画

- ・事務局より、資料3を用いて説明がなされた。

（古川委員長）質問等はないようなので、行動計画についてご承認いただいたものとする。

(8) 今後のフォローアップ

(9) 「薩摩川内市次世代エネルギー導入促進協議会総会」議事次第（案）

(10) 柏木委員提出資料

・事務局より、資料4～資料6を用いて説明がなされた。

(11) 自由討議

(吉満委員) 多方面より著名な方に参加いただき、大変うれしく思っている。ビジョンの普及の方法や市民の方への伝え方を考えていく必要がある。企業へは伝えていきやすいと思う。小学校のPTA会長をしているのだが、母親たちへどのように伝えていけばよいかを考えていきたいと思う。

(田中委員) 市民として、薩摩川内市がこういった取り組みをしていることへ感謝しており、また光栄に思っている。推進に向けて、一市民、一企業人として邁進していきたい。行動計画と今後のフォローアップまで作られており、ビジョンだけで終わらせないという意気込みを感じる。各行動計画には前提があるので、その確認と精査を行いながら行動計画を進めていくことが重要である。前提の部分があってこそその行動計画なので、その前提部分のフォローを中心に進めていただきたい。また、地元の企業、電力会社、大手企業とのコミュニケーションや協力が重要である。そこを事務局でコントロールしていく必要がある。メンバーの一人として今後も尽力していきたい。

(荒木委員) スマートな薩摩川内ということで、他の地区と比べて、エネルギーの供給だけでなく、賢い使い方まで見込んでいる点は、差別化できており素晴らしいと思う。また、委員長のリードに敬意を表したい。資料1-1、3(2) 庁内部局間の連携・協力・共有が重要であるとある。今後進めて行く上で、見守り隊や市内の医師会やJAとの連携、また行政が縦割りなので、うまくリンクするように連携をとる必要がある。来年度から実証の話も出てくるので、地元の作業部会もいくつか入れていく必要があるだろう。次世代エネルギービジョン推進会議(仮称)の議長は、是非、委員長に引き続きお願いしたい。

(大矢様) 私自身、次世代エネルギーを考える機会を持たせていただいた。3.11の大きな災害が起きたこともあり、子供から大人までが心を痛み、人に何かをしてあげたいという想いを地球規模で考える機会となった。薩摩川内市から日本へ、日本から世界へ発信できれば素晴らしいと思う。

(永山委員) 委員会や作業部会を通じ、ビジョンや行動計画、今後のフォローアップ体制と、ここまででき上がると思っていた。県下の市町村の再生可能エネルギー等への取り組みを拝見してきたが、薩摩川内市は1歩も2歩も進んで取り組んでいると思う。地元の総合商社として、樋脇で南国ファームという形で農業生産法人を立ち上げており、甑島では海洋深層水の水事業をやっている。薩摩川内市の代表的産業である農林水産業に再生可能エネルギーや次世代エネルギーをいかに応用して展開していけるか、地元企業として微力ながらも寄与していきたい。

(住吉委員) 工学部の電子工学科で、エネルギー部門の核融合関連の基礎研究をしていた。今回、こういった市民のためのエネルギーという観点から参加させていただき、非常に勉強になった。鹿児島大学は、4月より学長が交代するのだが、現学長はプロジェクト研究として、「食と健康」、「島嶼」、「環境」というキーワードで研究活動を進めており、新学長はそれらに「エネルギー」と「水」というキーワードを加えていくことを宣言している。鹿児島大学と薩摩川内市は協定を結んでいる。私は4月からは工学部から離れ、地域連携をカバーする研究担当として仕事に就く。鹿児島大学が地域のためにどのように寄与できるかを考えながら、次世代エネルギービジョンが実現していくのを見守っていきたい。

(三本委員) 本委員会に参加し、非常に勉強させていただいた。Woman 創 ing のメンバーとも意見交換していただき、非常に感謝している。担当課の皆様が地域の方々と接点を持たれて、意見交換をたくさんしていただいたことが良かったと思う。また、これからも継続していただけることに感謝したい。私も参加できる機会があれば協力したい。今回少し足りないと感じたことは、ここのメンバーやコミュニティの方々は様々な地域活動に参加されているレベルの高い人が多いので、子育て世代の女性やもう少し生活に近い視点を持った方々との意見交換の場を持った方がよいと思う。行政の方でも、市民生活、農林水産、観光について各部署でいろんな活動をしているので、連携を取りながら進めていくことが重要である。それぞれが各行動をしているだけでは良いものがないので、縦割りではなく横の連携を強めて、綿密に情報を共有していくことが重要である。今回は皆様と勉強させていただき、Woman 創 ing のメンバーとも話し合いができ、非常に感謝している。今後とも宜しく願いたい。

(宮田様) 本日は出張にて欠席となった工場長の葦迫より、皆様方へ感謝の意をお伝えしたいとのことであった。私は、元々製造部門に携わってきたので、省エネルギーは重要な業務の一部であったため、関心を持っていたが、本会合に出席させていただき、様々な分野の方々の様々な視点での意見を伺うことができ、非常に勉強になった。ビジョンと行動計画は膨大な作業であり、事務局および委員長の力量に脱帽しているところである。非常によい出来だと思っている。現時点は、カーナビで目的地を設定してルートを決めただけの状況であるので、これからアクセルを踏んで安全に目的地へ向かわなければならない。そのためにも推進会議と促進協議会の位置づけが重要である。目的を達成してこそ意味がある。スタートの2、3年は薩摩川内市にとって重要な年となるだろう。ビジョンと行動計画を市民へ周知していくことが重要である。一般家庭の子供や母親達への周知、PTA 等のルートの利用、進捗状況を伝えるシステム作りなど、推進会議や協議会で議論できればよいと思う。

(上蘭委員) 国のエネルギー政策が揺れ動き、政権交代がある中で、薩摩川内市がプロジェクトを立ち上げ、古川委員長が委員会を引っ張ってこられたことに敬意を表したい。ガス事業経営の立場で参画させていただいており、今後とも微力ながらお手伝いしていきたい。LP ガスが生まれて100年目になり、世界中でLP ガス誕生100年祭をやっており、当社でも行っているところである。「過去を祝福して、未来を創造しよう」というアメリカの考え方で、英語で言うと「Celebrate the past, Create the future」である。東洋流に翻訳すると温故知新といえるだろう。ビジョンでは、既存のエネルギーの重要性を再確認しながら、次世代エネルギーを構成していこうということである。今回皆様の英知が集約された本プロジェクトが成功することを祈っている。

(水町様) 欠席の坂口よりコメントを預かってきたのでお伝えしたい。「本日は次世代エネルギービジョン策定委員会の最終回にもかかわらず、出席できずに大変申し訳ない。本委員会において古川委員長をはじめとする各委員の皆様との議論に参加する機会を頂き、皆様と共に薩摩川内市独自の次世代エネルギービジョンを纏め上げることができ、大きな喜びを感じている。市内のエネルギーの潜在量を調査すると共に、市が抱える課題や特徴をアンケートや地区コミュニティ協議会を通じた市民との対話を通じて、十分に現状分析が行えたと思う。単にエネルギーだけを取り扱うのではなく、市民生活の向上を目指した街づくりのために、未来の薩摩川内市に必要なとされているものを考えた価値ある委員会であった。当初計画していたスマートグリッド実証試験を具体化できる環境が整ったことは、本取り組みのおかげである。今後も市民の皆様へのエネルギーに対す

る理解の促進、次世代エネルギービジョンの具現化に向け、できる限りの協力を行っていききたい。」

(金沢委員) 古川委員長のご挨拶にもあったが、やはり現場重視である。私どもも ICT でどうやって現場を効率化するかを考えている。地区コミュニティ協議会で出た意見の中で、これからどれを優先的にしていくか。「みんなで創る」というキャッチフレーズにあるように、市民のご理解を頂きながら、富士通としては具体化に向けてグループ総力で知恵を出していきたい。

(永野様) 県としては、新エネルギー導入ビジョンの見直しと同時進行で、協調して作業を進めていくという方向でオブザーバーとして参加した。しかし、国の政策を踏まえた上での見直しということと出遅れたのだが、素晴らしいビジョンが完成し、今後の参考となるだろう。県が4月1日に発足するエネルギー政策課への異動が決まり、一生懸命協力する気持ちでいっぱいである。今後とも推進会議のメンバーとして参加させていただくので、宜しくお願ひしたい。

(田上様) オブザーバーの立場ではあったが、委員と同じ気持ちで参加させていただいた。古川委員長のリーダーシップと委員の皆様の熱意で素晴らしいビジョンと行動計画ができたと思う。フォローアップと今後の体制は非常に重要である。前回委員会にて、市の部局内の体制について質問したところ、きちんと市が体制をとっていくということであった。九州経済産業局としては、ビジョンを応援していく立場である。九州経済産業局の産業部、地域経済部、国際部、資源エネルギー部の各部署で農業の産業化や技術開発、人材育成、商店街の活性化等のいろんな取り組みをやっているの、各部局との連携を密にさせていただいた方がよいと考え、案の段階であったが、久保課長よりビジョン案を説明していただいた。フォローアップについては今後も局が全面的に取り組んでいきたいと思っている。また、グリーンエネルギーを産業化したいと取り組んでいるのだが、明日、九州グリーンエネルギー産業推進協議会を立ち上げる。九州地方整備局や九州農政局、運輸局といったいろいろな部署で、グリーンエネルギー推進のための施策を用意している。ワンストップで地域へ提供できる機関にしたい。来年度以降の取り組みには、そういった機関の情報を提供させていただきたい。

(野間口委員) 資料 2-3、資料 3 で示されるように、大変素晴らしいビジョンがまとまったと思う。私は委員会に3回しか参加できなかったが、産総研からは複数の研究者が参加させていただき、大変勉強となった。キャッチフレーズは、将来に向けて元気が出そうで大変良いと思う。中味についても、薩摩川内市の現実をしっかりと見つめて、その上で再生可能エネルギーをどのように利用していくか、議論を尽くした検討がなされたと思う。論述としても相当なレベルではないかと感心している。産総研では、北海道から九州まで地域センターを持っていて、年に2回ほど各地域を訪ねて、地域の産業界や大学の方とワークショップ等を開いている。ここ数年は、中央から大企業を誘致するのではなく、自ら工夫してその地域の資源で活性化しようという動きが強い。その中でよく出てくるキーワードは、再生可能エネルギーを利用したいということである。薩摩川内市のビジョンは他の地域の模範となるようなビジョンである。ネットワークイノベーションのハブになるような先導的な検討がなされたと思う。行動計画が計画で終わるのではなく、具体的な行動へつなげていくことが重要である。産総研としては基礎的な将来志向の研究をしているが、今日明日の課題もかなり多く取り組んでいる。そういった中から、ビジョンに近いものを提案して、具体的な活動が生まれるように、国の資金等も流れ込んでくるような具体的な貢献がで

できればと考えている。推進協議会には九州センターの代表をつけ、産総研全体に繋がるようにしていきたいと思う。

(12) その他

- ・事務局より、参考資料1～3を用いて説明がなされた。その後、古川委員長よりご挨拶を頂いた。

(古川委員長) 昨年4月26日に第1回会合があり、本日3月26日に第9回目として最後の会合となった。ちょうど11ヶ月で終わったのだが、第1回目の4月26日は私の誕生日でもあった。委員各位におかれては、公私共にご多忙のところ、本委員会に多大な時間と骨折りを頂き、ビジョンと行動計画としてまとめることができた。この11ヶ月の間に政権交代により政策が変わり、経済環境も激変の様相を呈するなど、委員会を取り巻く環境が大きく変わった。委員各位は、市民生活に目線を合わせ、市の財政状態に理解を示しながら、ぶれることなく次世代エネルギーの活用という切り口で市の問題解決策を模索し、精力的に活動していただいたことに厚く御礼申し上げたい。検討や討議のために、惜しみなく市の情報の開示や献身的な働きをしていただいた向野対策監をはじめとする市役所職員各位にも深甚の謝意を表す。また、各種データ収集や資料作成に採算を顧みずにご尽力いただいたみずほ情報総研にも御礼申し上げたい。また、報道関係各位、傍聴していただいた市民の方々、地区コミュニティ等の対話に参加いただいた多くの市民各位にも御礼申し上げたい。市長にビジョンと行動計画を提出した後、委員会の役割を終えるが、エネルギーのまち薩摩川内市にとっては、今日からが新しい市政のスタートである。行動計画に沿って、薩摩川内市がスマートに変貌していくことを応援しながら、温かく見守っていきたい。

5. 閉会

- ・第9回薩摩川内市次世代エネルギービジョン策定委員会を閉会した。
- ※委員会終了後、同会場にて、古川委員長から岩切薩摩川内市長に対し、上記ビジョン及び行動計画が手交された。

以上